

ブータンの地質

＜茂木 睦＞



1. チェレ・ラ (Chele La, 3,750m) から見た世界第3の高峰カンチェンジュンガ (8,586m)、カンチェンジュンガが東から見えるのめずらしい。



2. 人物の前の窪みがNS系断層。左はテチスのチェカ層。右は細粒優白色花崗岩。



3. ブムタン近くの峠、キキラ (2,900m) には比高270mの段丘堆積物を覆う白色風成層があり、それらを切る垂直の化石氷楔(?)とみられる構造が紫褐色風成層に覆われている。



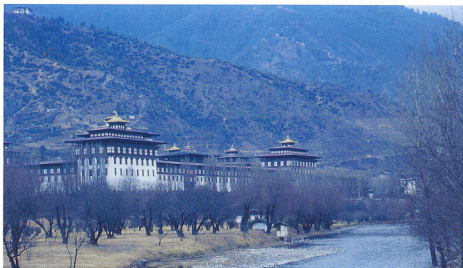
4. プンツォリン東部における
ブンツォリン層の斜面崩壊
(茂木, 2000の場所).



5. ギダコム
の林道で発見された
シュマル層のリップル
マーク.



6. キャンプの夕食、赤米に野菜カレーとエゼ(唐辛子粉と野菜のみじん切りを自家製のチーズで和えたもの)が毎日のディナー定食。著者の食器は中央上、ブータン人はこのご飯を2回以上お代わりする。



7. タンチョ・ゾン、内務省など国政と国教の中心機能が集中している。手前は外務省。